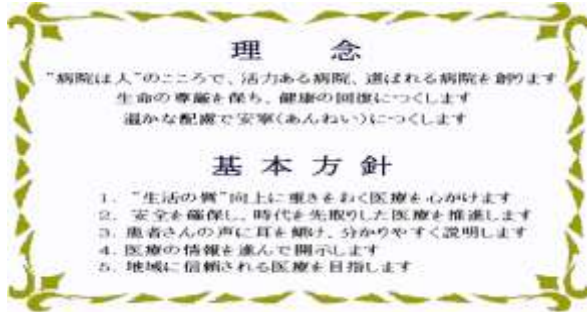


令和 2 年 11 月 1 日 発行
KKR 札幌医療センター
〒062-0931
札幌市豊平区平岸 1 条 6 丁目 3-40
電話 (011) 822-1811
<http://www.kkr-smc.com>

(2020-11 号)



<u>11 月(霜月)のこよみ</u>		
11 月 3 日 (火)	文化の日	
11 月 7 日 (土)	立冬	
11 月 23 日 (月)	勤労感謝の日	



甲状腺眼症の放射線治療

放射線科部長 永倉 久泰

甲状腺眼症とは、目を動かす筋肉がはれて太くなったり、目のうしろにある脂肪が増え過ぎたために、目が出る、まぶたがはれる、ものが二重に見える、涙がポロポロ出て止まらない、目がゴロゴロして痛い、光がまぶしいなどの症状が出る病気で、重症の場合は失明の危険もあります。甲状腺ホルモンが必要以上に出るバセドウ病（甲状腺機能亢進症）が原因のことが多いので、バセドウ病眼症とも呼ばれますが、甲状腺ホルモンの異常がなくても甲状腺眼症になることがあります。

甲状腺眼症の治療にはステロイドという種類の薬を使うのですが、糖尿病のようにステロイドを使うと悪化する持病がある場合は放射線で治療します。また、ステロイドには免疫が弱くなる副作用があるため、もし肺炎になったら重症になりかねない高齢者の場合、ステロイドを敬遠して放射線で治療することがあります。ステロイドが効かなかった場合や、精神症状などの副作用が出てステロイドが続けられなくなった場合も、放射線治療に切り替えます。

また、ステロイドは少しずつ減らして止めていくものなのですが、ステロイドを減らすと症状が悪化するるのでステロイドがやめられない場合も放射線治療になります。放射線治療をすればほとんどの場合でステロイドが減量でき、ステロイドが必要なくなった人も少なくありません。

放射線治療というと、がんのような悪性の病気の治療法だと思われがちですが、このように良性の病気に使われることもあるのです。放射線治療は甲状腺眼症の数少ない治療法のひとつであり、世界中で行われています。平日 1 日 1 回で合計 10 回、およそ 2 週間程度の治療で、外来通院でできます。効果が出るまでに半年ぐらいかかることもありますが、意外にも放射線治療はステロイドと違って副作用がほとんどないのが特徴です。

当院は「敷地内全面禁煙」となっております

医療安全の取り組みについて

医療安全管理部副部長 三上 智哉

KKR札幌医療センターの理念に基づく基本方針の中に「安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します」とかかっているように職員一同で医療安全に取り組んでいます。今回はその取り組みの一部についてお伝えします。

当院には医療安全管理部という部門が設置されており、患者さんの安全を確保するために医師、看護師、診療技術部ならびに事務職員の一人ひとりが安全な医療を目指して取り組めるよう活動しています。主な活動としては各部門で発生した事故の対応と分析、院内医療安全研修や講演会開催、救急対応の手技が習得できるようにBLS-AED講習開催、院内ラウンドでの監査や啓蒙、患者相談窓口などです。医療安全は患者さんだけでなく医療者にとっても大切なことであり、患者さんやご家族とともに「安全文化」を創っていくものだと思います。

厚生労働省から推進されている「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動」の中の「安全な医療を提供するための10の要点」の一つに「安全を高める患者の参加 対話が深める互いの理解」とあります。患者さんがご自分の治療やケアに積極的に参加していただくことでの患者参加型の事故防止です。その一部をご紹介します。

実際に経験された患者さんが多いと思いますが、受診された際に何度も「お名前、生年月日」名乗っていただく場面があったのではないのでしょうか。医療者側の書類や検体などにも患者さんの情報は記載されていますが患者さん本人から名乗っていただき、医療者側の情報と整合させることで患者間違い事故の防止としています。実際に外来で、ある患者さんのお名前をお呼びしたところ、別の患者さんが誤って診察室に入ってしまうということも起きています。「次は自分かも・・・」とっていると自分の名前に聞こえてしまうという心理が働くと考えます。そのため、お手数ですが必ず「氏名、生年月日」を名乗って確認していただけると安全です。

また、10の要点の中に「患者と薬を再確認 用法・用量 気を付けて」とあります。お薬に関しても患者さん自身での薬剤効果の理解や服用方法、処方日数、残数などの管理をできるだけお願いしています。ジェネリック医薬品導入で薬品名の変更や複数科受診されていると管理が難しいこともあるとは思いますが、そのような時はいつでもお声をかけてください。医師、看護師、薬剤師と一緒に確認いたします。

これからも患者さんが安心して受診していただけるよう職員一丸となって医療安全に取り組んでいきたいと思っています。何か不明な点や疑問がございましたらいつでもお声をかけてください。「安全文化」を維持、構築していくために一緒に取り組んでいただけたら幸いです。